

8. 茨城大学教員養成シンポジウム&FD

平成 29 年 12 月 20 日には、全学教職センターと教育学部との共催の形で、茨城大学教員養成シンポジウム&FD「教員を目指す学生の資質・能力育成の課題—文教政策の動向と地域貢献のあり方—」が、以下のスケジュールで水戸キャンパスの講堂において行われた。当日は、日立・と阿見キャンパスにもVCSで配信され、193名の参加者があった。その内訳は、教職員が90名、教育学部生が103名で、教員と学生が集い、活発な意見交換が行われた。司会は、全学教職センター長の小川哲哉が行った。

【講演】教員を目指す学生の資質・能力育成の課題
広島大学大学院教育学研究科教授坂越正樹先生
(中教審臨時委員・教員養成部会副会長)

【教育学部 iOP 成果報告】
iOP の説明 (野崎英明教務委員長)
学生報告 1 (国語選修 3 年 佐藤美咲)
学生報告 2 (養護教諭養成課程 3 年 小野梓)

開催に際しては、まず太田寛行副学長のより茨城大学の教員養成教育の方針が述べられ、これからの学校教育を担う教員の資質向上にとって重要なのは実践的指導力の向上であるが、そのためには学校現場体験等、広く学外での教育活動の機会を増やしていくことが必要であり、今年度から教育学部で実施している iOP(**internship off-campus program**)活動の重要性が指摘された。

坂越氏の講演では、我が国の子どもの取り巻く社会状況に対応するためには、学校教育や教員養成教育の大きな変革が必要であり、それに対応した教員の資質能力の向上を図る多様な施策が必要であり、平成 27 年 12 月の中教審三答申の重要性が指摘された。また今日の教員養成において喫緊課題とされているのは、教員養成教育の質保証であり、そのための教員養成コアカリキュラムに基づいた質の高い養成教育が必要となっている。さらに個々の教員が生涯学び続ける教員として、これからの学校教育を担う教員資質能力の向上を図らなければならないことが指摘された。

続いて野崎委員長より、本年度より開始された第 3 クォーター (以下、3 Q) の教育学部 iOP 活動についての説明があった。iOP は、3 Q で行われる教育学部学生の自主的な学外学習活動であり、海外研修、インターンシップ、サービスマーケティング、発展学修などがある。教育学部の場合、特に「教育インターンシップ」が注目される。本年度この教育インターンシップに参加した二人の学生からは、多様な校種でのインターンシップの活動報告がなされた。その利点としては、小中学校だけではなく、特別支援学校や高等学校までの様々な教育現場を経験でき、協力校実習への見通しができること。また教育実習とは違い、教育現場を余裕をもって客観的に見ることができると報告された。学生の報告の後、坂越氏との意見交換や、フロアからの質疑応答が行われるなど、活発なやり取りがなされた。

閉会の辞は、生越達教育学部長が行い、教育学研究科における教職大学院の取り組み等、本学の教員養成の現状とこれからの教員養成の課題が指摘された。